

飛龍の1歩手前「躍龍」



講座篇II

竹村亜希子

ざっくりと説明するならば、大人からコピ―したものを崩す時代。これである。

さて、君子終日乾乾には「龍」の文字がない。変である。が問題はない。君子が龍なのである。

簡単にまとめることにする。「問題が起こる」とより

も、それに対処できない

見龍の時代。基と型を徹底してまする段階である。ねる時代であった。完 想像力、創意工夫、べきなコピ―である。そうして見

基本から本物の技を創出

龍の次の時代が「君子終日乾乾」だ。物の個性などを開花させる時。基本の次。それは基本の次。それは基本の次。

時なのである。うなら取締役昇進であかくして君子終日乾乾で「プロとしての力」躍龍」だ。を身に付けた」龍は、飛龍の1歩手前である。次に進む。企業人である。

問題

東場4局。3900点のプラスで2位の西家。

トップとは1300点の差。1巡目に[]が暗刻となり[]打。2巡目に[]が入った場面。ドラは[]。



実戦麻雀

ここで次の応手が考えられるが、どう構えるのがいい？

解答は左下に

「躍る」とは飛龍のまね事である。一瞬だけ空中にいる。ただ表面的になぞるだけではいけない。本番さながらのシミュレーションなのである。

言葉を換えよう。完成直前の状態なのだ。

いつ飛龍になってもいいように、その時代がいつ満ちてもいいように、準備を怠りなくしていない。ならないのが躍龍の時代なのである。

1年前

【6月30日】